

養南新聞

発行所
社会医療法人緑峰会
養南病院
〒503-0401
海津市南濃町津屋1508
☎(0584)57-2511
Fax(0584)57-2513
http://www.younan.or.jp
younan@ogaki-tv.ne.jp

ぎふストレスケア
クリニック
〒500-8345
岐阜市菊地町2-1-1
☎0581-274-9600

春にもネクステージ着エへ

このたび支援アパート「ネクステージ」増設の計画があることがわかった。運営委員会発表によると、着工は今年3月、完成は7月の予定。
7年ぶりの増設
支援アパート「ネクステージ」は平成23年にA棟B棟が初めて建てられ、その後25年から28年にかけC棟F棟が建ち、現在6棟24室で運用されている。
支援アパートとは養南病院独自の呼称で、障害を持ちながらも自立した社会復帰を目指すための単身者用アパートのこと。職員が常駐するわけではなく、一般のアパートに近い形態をとるため自由度は高い。



こんなイメージ

病院関係者は「グループホームなどは増えつつあるが、まだ足りていないのが実情。その名の通りこのネクステージLightを気軽に利用して社会復帰にチャレンジして欲しい」と話す。

◆開設40年目に突入
11月29日(火)に、創立記念式典および永年勤続表彰が行われた。
養南病院は昭和58年の開設で満39歳。今年で40年目の節目を迎える。同時に行われた永年勤続表彰では20年表彰の2名をはじめ17名が表彰を受けた。今年10年表彰を受けたGSC(ぎふストレスケアクリニック)の大野一人課長は「今日までご指導いただいた多くの諸先輩方や同僚の皆さんには感謝の気持ちしかございません」と表彰者を代表して謝辞を述べた。表彰者は次の通り。



今回表彰された皆さん

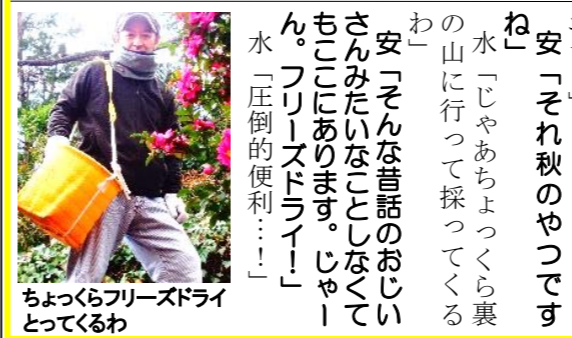
20年表彰
山口 寛美(オレンジハイツ)
夏目 靖子(デイケア課)
10年表彰
菅沼 真衣子(デイケア課)
坂口 政美(北病棟)
和田 祐己(デイケア課)
北嶋 貴広(総務課)
大野 一人(GSCデイケア課)
横井 孝明(オレンジハイツ)
河村 幸喜(北病棟)

「特別にウォシュレット完備」
ストレスケア病棟のユニットバス付きのお部屋がようやくウォシュレットになったような。個室料金3000円も取っていません。今まではなかったウォシュレット完備です。



重機の操作からウォシュレットまで何でもこなすケンシロウ

「食のこだわり」
安田「年末年始はお楽しみメニューが続きましたね」
水谷「クリスマスチキンとケーキにはじまり年越しの天ぷらそば、正月のおせちにはエビフライ井



ちよっくらフリーズドライとってくるわ

◆駐車場完成
この程、外来患者用の駐車場改修工事が無事完成した。
最終的な駐車可能台数は既存の駐車場と併せて90台で、土日などにおける混雑が大幅に解消される見込み。

◆家族教室
12月18日(日)、気分障害の家族教室が開催された。患者家族ら18名が参加した。この日講師を務めた心理課の橋田勝美部長は、「うつ病の回復を助けるサポート」と題し、家族や周囲の人が心得ておくポイントをわかりやすく解説した。

◆1月の家族教室
第一部「講演」
「一緒に目指すリカバリー」
講師：林昌吾 作業療法課長
第二部「グループワーク」
日時：1月15日(日)
14時～16時
場所：デイケアセンター
対象：統合失調症 患者様とご家族

デイケア シブりにどっぴり

愛知県にジブリパークがオープン。デイケアでも11月をジブリ月間とし、ジブリにまつわる多くの企画が催された。なかでも好評だったのはジブリ飯の再現企画。「とんりのトトロ」からはサツキのお弁当。映画「大冒険」のお弁当が完成し大いに盛り上がった。



安っぽい弁当だが完成度は高い

デイケア 小ジャンボ宝くじ

前回は2位の関谷院長は順当に決勝戦に進出。最後は得意の尾崎豊で優勝を狙ったが、前回優勝のメンバーI.Sさんと同点となり、雪辱を果たすとまではいかなかった。



15の夜を熱唱する53の屋下がり

◆リワーク
この度、日本うつ病リワーク協会より、当院のリワークスタッフである神崎順次課長が「指導スタッフ」に、馬淵真衣心理士が「専門スタッフ」に認定された。これにより、当法人のリワークプログラムはGSC(ぎふストレスケアクリニック)も合わせると指導スタッフ3名、専門スタッフ2名、認定スタッフ2名が在籍することとなり、今後は更に質の高いプログラム運営に期待が高まる。

◆関谷院長からの挑戦状
11月7日(月)緊急企画「院長からの挑戦状」と題し、カラオケ大会が開催された。
大会には歌自慢のメンバー18人とスタッフの夏目靖子主任がエントリー。辛口の採点機にも負けずそれぞれの十八番を歌い切った。

◆デイケア
昨年11月より小ジャンボ宝くじ企画がスタート。毎日プログラムに参加するとポイントカードに1ポイントのハンコが押され、5ポイントで1枚の宝くじに交換できる。12月30日には当選番号の発表が行われ、参加者は一喜一憂。年末のワクワク感を楽しんだ。企画した夏目靖子主任は、「社会復帰のためにまず家にこもっていないで、一歩を踏み出すことが大事。少しでもそのモチベーションを高められたら」と話した。当選番号は1月一杯貼り出される予定。



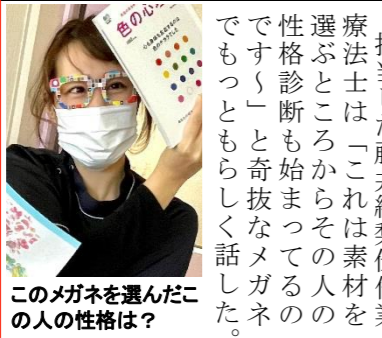
まだまだリワークを盛り上げます！

◆笑門
今回は昨年8月から心理課で勤務する大野由貴さん。(穏やかな微笑でソフトな印象を与える一方凛とした佇まい。スキがない)
Q 病院はどうですか？
A 職場の雰囲気も良くて相談もしやすく働きやすいです。見知らぬ土地なんです。見知らぬ土地で成長したいと思いついて飛び込んできちゃいました。
Q 積極的に行動的ですね。スキがない。
A いえ、むしろ天然で抜けてます。自分でも大丈夫かと思うことも。
Q そのうは見えませんが、公開可能なエピソードは？
A 私なぜかよくコケるんです。何も無いところでも。あと電気つけっぱなしで数日出たこと、スマホ落としたりしたことにも気づかず1週間後に

◆カラーリングで心を癒して
西病棟で行われている「マスキングアート」。これはマスキングテープの色と柄を活かして絵を描くもので、巷ではじわじわと人気が高まっている。この日は20名以上が参加し、木の幹のイラストに思い思いのテープを貼りカラフルで個性的な作品が出来上がった。
担当した藤井絵梨佳作業療法士は「これは素材を選ぶところからその人の性格診断も始まっているんです」と奇抜なメガネでもっともらしく話した。

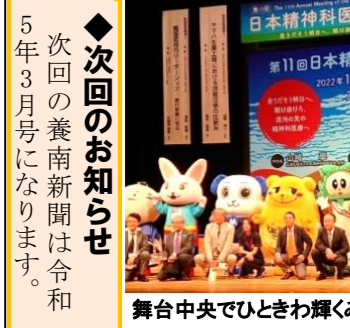
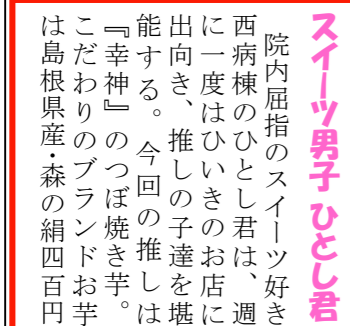
◆みかろんゆるキャラ シンポで登場
10月28日(金)浜松で開催された「第11回日本精神科医学会学術大会」において当院のみかろんが「精神科病院におけるブランドジウム」と題したシンポジウムに院長とともにシンポジストとして参加した。
シンポジウムでは北は青森から南は沖縄までの精神科病院のマスケット6体が参加。みかろんは全体の3番目に登壇し、自らの歴史や活躍を発表した。

◆スイーツ男子ひとし君
院内屈指のスイーツ好き西病棟のひとし君は、週に一度はひいきのお店に出向き、推しの子達を堪能する。今回の推しは『幸神』のつぼ焼き芋。こだわりのブランドお芋は島根県産・森の絹四百円



このメガネを選んだこの人の性格は？

◆次回のお知らせ
次回の養南新聞は令和5年3月号になります。



舞台中央でひとしきわ輝くみかろんと関谷院長